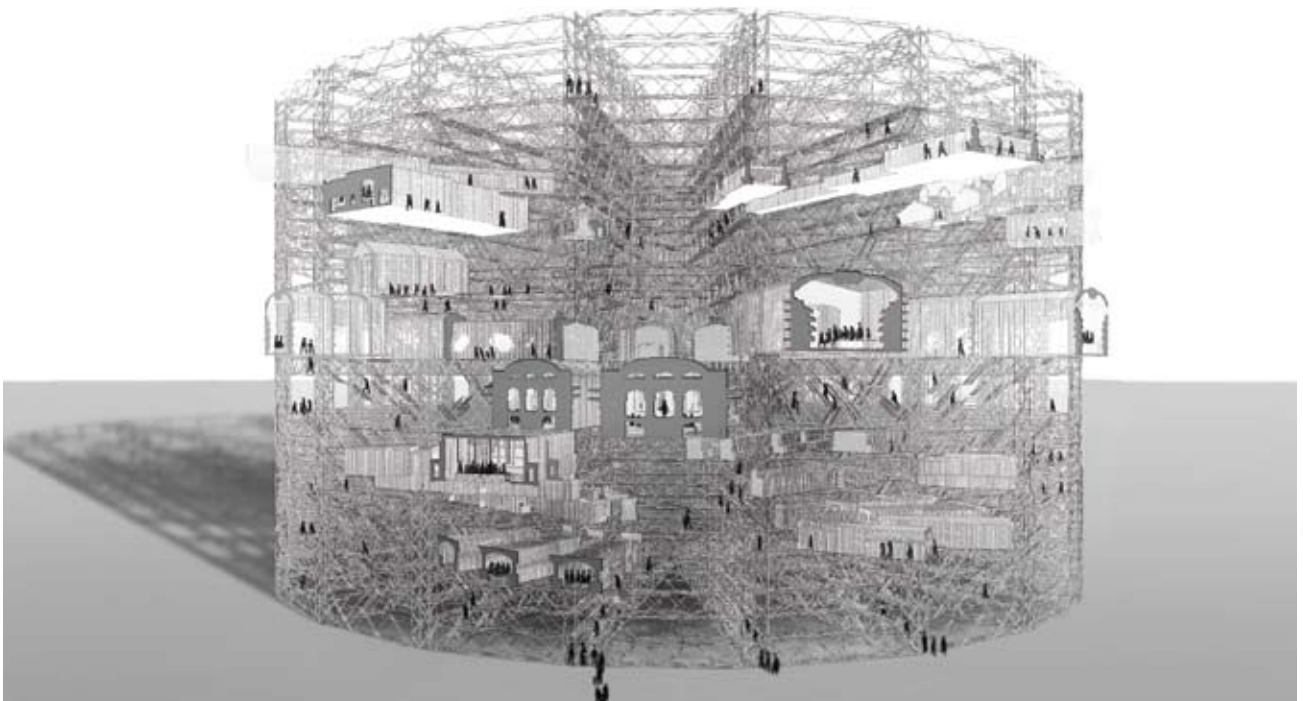


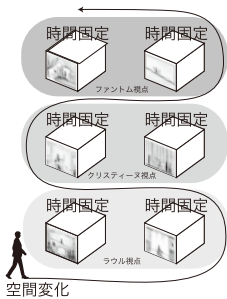
永山賞

Phantom ~ミュージカル「オペラ座の怪人」の多解釈を誘発する仮設移動型劇場

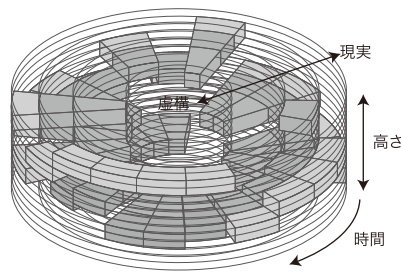
慶應義塾大学 環境情報学科
加藤 有里



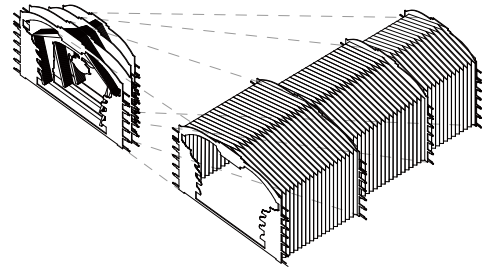
全体パース



新しい劇場形式



小劇場配置の3軸



各小劇場は剛体折り紙と書割で展開式の空間となる

設計主旨 concept

・ALW版ミュージカル「オペラ座の怪人」という作品を多様な解釈で何度でも楽しむことができる仮設移動型劇場「Phantom」を提案する。

・オペラ座の怪人は実在する建築物ガルニエ宮でストーリーが展開する。人間の視点、ガルニエ宮内の空間、時間を変化させることで定期的に新しい解がつけられている。

・オペラ座の怪人にあわせ、新しい劇場の形式である複数視点時間固定空間変化の小劇場群を、直径100mの円形足場空間の中に点在させる。小劇場群を様々な組み合わせで旅することで、ひとつの物語を多様な解釈で体験することを可能にする。

・仮設に伴い足場、劇場を構成する部材はすべてコンテナに収納され、いままで観劇文化の薄かった地域も含め世界中の様々な地域を巡業していく。

・各小劇場は剛体折り紙とガルニエ宮を模した書き割りで足場の中に空間をつくる。書き割りによってガルニエ宮の空間を疑似体験しながら小劇場をめぐることでガルニエ宮全体の空間体験を仮想的に実現する。

卒業設計は自分の考えていることを100%顕在化させ世の中にさらけ出す大舞台である。その大舞台らしい提案であると感じた。”オペラ座”の怪人の魅力に取り憑かれ、その分析から始まり、それを建築化してしまった。ドストレートなエネルギーに清々しさを感じた。移動遊園地のようなアトラクション的な表現、そこで並行して行われるシーンごとの舞台。巡回していくための効率的な構造、通常の舞台よりも沢山の役者とスタッフが必要になる与件など、その仕組みそのものにリアリティと必然性があるとさらに力強い提案になったと思う。
(講評 永山祐子)